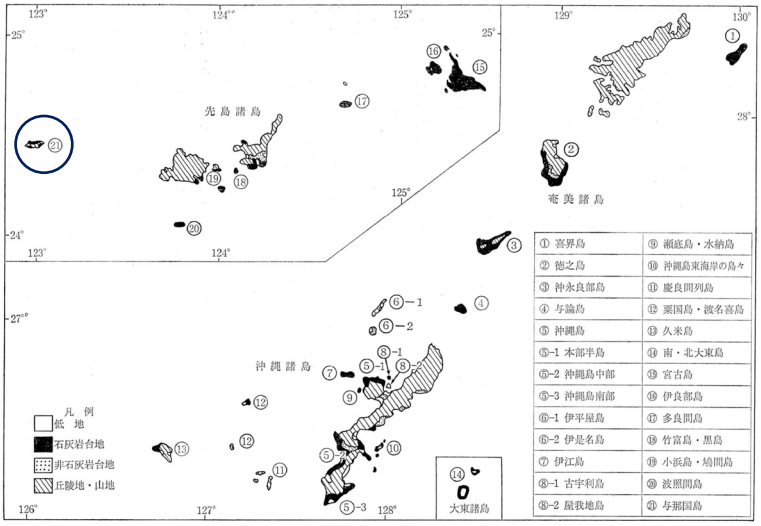
21.与那国島



地形・地質

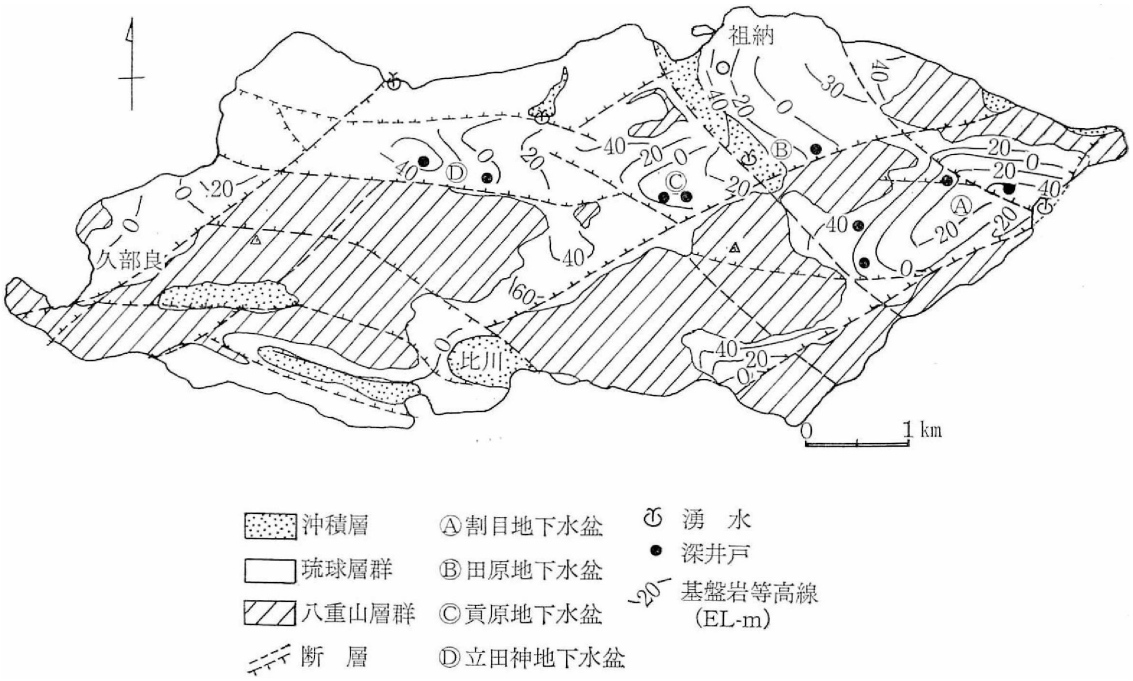
与那国島は最西端の島で，面積が 28.5km^2 です。地形は起伏に富んだ中央山地とその周囲に広がる台地からなり，島内には数条の断層地形がみられます。地質は八重山層群が山地や琉球層群の下位に広く分布し，水文地質上の基盤岩となっています。

与那国島の地質層序表

地質時代		柱状図	地層名		層厚 m	岩相その他
第四紀	完新世		砂丘砂層		6～7	有孔虫砂～石灰質砂
			沖積層		5－	有機質土～海浜砂よりなり低地面に分布
	更新世		琉球石灰岩Ⅱ	琉球層群	10－	標高５～10mの段丘面に分布、上部は礁性石灰岩、下部は礫層
			宇良部層		1～23	八重山層群の砂、礫を主体とする地層
			琉球石灰岩Ⅰ		80＋	台地の主部を構成する地層で、上部はサンゴを主体とする礁性石灰岩、下部は砕屑性石灰岩よりなる未固結の地層
			ドナン岳層		30±	主として黄褐～黄灰色の淘汰のよい砂層
第三紀	中新世		八重山層群			細～中粒の砂岩優勢層で頁岩との互層もみられる

地下水

琉球層群・沖積層・砂丘砂層が帯水層で，八重山層群が基盤岩である。琉球層群のうち琉球石灰岩は，この島の主要な帯水層です。



与那国島の水文地質図

出典　日本の地下水（農業用地下水研究グループ,1986）（一部加筆）

「日本の地下水」では全国の地下水盆の概要が紹介されています。各地下水盆の概要を紹介している頁と関連する論文等を、下記の Web ページで閲覧できます。

https://jagh.jp/activities/groundwater_database/（日本地下水学会）